

剽窃事件顛末記

中西 襄^{*1}

1999 年，筆者は自分の著書の剽窃事件を体験した。以下，当時の記録に基づいてその一部始終をまとめてみた。明らかな不正の存在を巡って人々がどのように振る舞うか，興味ある人間模様を見ることができる。^{*2}

1 はじめに

今年の初め，理研の小保方晴子さんらのグループが，普通の細胞にちょっとした刺激を与えることで万能細胞（「STAP 細胞」と命名）が出来るという論文を NATURE 誌上に発表し，各方面から大きな期待と賞賛の声が寄せられた。しかしそれも束の間，この論文は極めて疑わしいという声があちこちから上がるようになった。最も重大なのは，小保方さんが関与しない限り誰も STAP 細胞を再現できないということである。そして STAP 細胞が出来たことを証明する写真が，変造されていたり，他の実験のものが流用されていたことだった。しかし，前者は STAP 細胞不存在的の証明にはならないし，後者は何らかの手違いという可能性を否定できない。本人の作為が明らかなのは，他の論文の文章の剽窃である。剽窃は，NATURE に発表された論文のみならず，その 3 年前に早稲田大学に提出された小保方さんの博士論文にも見つかった。これは彼女の作為の犯行であることを決定的に裏づけるものである。

論文の剽窃ということは，科学の世界でどれほど行われているものか，調査が非常に難しい。多分論文のいわゆるコピー (copy and paste の略) は，常習的に行われているのではないだろうか。犯行がばれる確率は極めて小さいと思われる。実際，小保方さんの博士論文の冒頭の 20 ページにもわたるコピーは 3 年間ばれなかった。もし STAP 細胞など大それた論文を発表しなかったら，永久にばれなかったであろう。以下，私自身が剽窃事件に巻き込まれた実体験の記録を振り返ってみたいと思う。この場合も剽窃の犯人があまりにも大量にコピーをやったため，たまたま発覚したものである。しかも彼はその 3 年前から剽窃論文をいくつか書いていたのだった。

2 事件の発端

事件の発端は，1999 年 11 月 9 日の菅野浩明氏^{*3}からの次のようなメールである。

「今日，基研のプレプリント・サーバーに気になる論文を見つけたので，お知らせします。hep-th/9911045-49 という一連の論文がそれです。論文のタイトルが気になったので，少し眺め

^{*1} 京都大学名誉教授。nbr-nak@trio.plala.or.jp

^{*2} ほぼ同内容の記事を電子版サーキュラー「数学・物理通信」4 巻 1 号にも掲載した。

^{*3} 彼はもと私のところの院生で，量子アインシュタイン重力に関する共著論文を書いたことがある。

てみましたが、その内容には、先生の量子重力理論に関する一連の論文を引き写したとしか思えないような部分が多く見られます。それにも関わらず、先生の論文は全く引用されていません。然るべき抗議をすべきと思いますが、いかがでしょうか。」

そこでさっそく調査してみたところ、論文の著者は Mebarki et al. で、文章の盗用は私の原論文からではなく、それまとめた著書 N. Nakanishi and I. Ojima, *Covariant Operator Formalism of Gauge Theories and Quantum Gravity* (World Scientific, 1990) の Chapter 5 からであった。この本は小嶋泉氏との共著であるが、Chapter 5 は量子アインシュタイン重力に関する章で、すべて私が執筆した部分である。論文は non-symmetric gravity^{*4}に関するものということになっているが、古典論の計算を少しやっただけで、肝心の正準交換関係から同時刻交換関係を計算することは全くせず、^{*5}結果は上記の本のまる写しである。とくに最後の 2 論文がひどかった。しかし原論文の引用はすべて消されていた。これは犯人が犯行現場の指紋をすべて拭い取るのと同じで、引用文献から尻尾が掴まれないようにするためである。だからこれは徹底的になされていた。しかし、コピペした文章の内容は全く理解していないものとみえ、ちょっとチェックしてみたらすぐにわかるはずの数式のミスプリントも、そのままコピペされていた。これは盗用がどこからなされたかを確実に証明するもので、ミスプリントにも意外な効用があるものだとわかった。

3 Mebarki 論文の告発

剽窃されたのは初めての経験なので、どう対処すべきか小嶋氏と相談した。犯人側との交渉は、共著者である小嶋氏にやっていただくことをお願いした。それは、私はこの時すでに京大数理研を退官していたし、それに犯人と被害者が直接交渉すると問題がこじれるかもしれないと危惧したからでもある。このためこの後、彼にはずいぶん迷惑をおかけすることになってしまった。

とにかく、Mebarki らの論文の告発をすることにし、上記プレプリント・サーバーに次のような論文を連名で送付した (hep-th/9912039, 6 Dec 1999).

Notes on Unfair Papers by Mebarki *et al.* on “Quantum Nonsymmetric Gravity”

It is pointed out that the essential parts of some recent papers by Mebarki et al. (hep-th/9911045, hep-th/9911046, hep-th/9911048, hep-th/9911049, dated 6 Nov.1999) are taken from a book written by Nakanishi and Ojima, published in 1990.

^{*4} 昔アインシュタインが一般相対論と電磁理論を統一する目的で考えた非対称計量テンソルの理論で、もちろん完全な失敗作であった。

^{*5} 量子化が正しく行えていないと同時刻交換関係は計算できない。非対称テンソルの同時刻交換関係は対称の場合とは同じではないはずだから、コピペしたくても元がないわけだ。

The following four papers, which have appeared as E-prints very recently, have come to our attention.

[MMZ] N. Mebarki, A. Maireche and S. Zaim, $N = 1, D = 4$ Quantum Nonsymmetric supergravity (hep-th/9911045),

[MMBB] N. Mebarki, A. Maireche, A. Boudine and A. Benslama, Symmetries of Quantum Nonsymmetric Gravity (hep-th/9911046),

[MM] N. Mebarki and A. Maireche, Quantum Nonsymmetric Gravity Geometric Commutation Relations (hep-th/9911048),

[MMH] N. Mebarki, A. Maireche and M. Houchine, QNGT Sixteen Dimensional $GL(4, R)$ -like Superalgebra (hep-th/9911049).

Taking advantage of the situation that nobody has discussed the quantum theory of *nonsymmetric gravity*, these authors pretended as if all of these papers were their original work. However, apart from some considerations at the Lagrangian level, the essential parts are taken from Chapter 5 of the following book published in 1990 *with absolutely no mention to it*:

[NO] N. Nakanishi and I. Ojima, *Covariant Operator Formalism of Gauge Theories and Quantum Gravity* (World Scientific, Singapore, 1990).

Moreover, Mebarki *et al.* delete all the references to the original papers on quantum Einstein gravity by Nakanishi (partly with some collaborators), published in 1978-1985.

What they reproduce from the book [NO] are not merely contents but also bulk of sentences, though, of course, with straightforward modifications necessary for pretending as if those were their own sentences. As a result, it becomes very easy to identify which parts are taken by them. As for [MMZ] and [MMBB], see Appendix.

Aside from Introduction and Conclusion, *the whole papers of [MM] and [MMH] are taken almost faithfully* (with some portions skipped and with some mistakes committed) *from Section 5.6 (pp.319-333) of [NO] and from Section 5.5 (pp.312-318) of [NO], respectively*. Mebarki *et al.* have copied even simple misprints of a mathematical expression in [NO], which could easily have been corrected if they had checked mathematical formulae.

The geometric commutation relation and the sixteen dimensional superalgebra or choral symmetry (named by Nakanishi) are very remarkable results *characteristic to quantum Einstein gravity*. To derive them, one must make full use of the equal-time commutation relations (between field operators and their time derivatives), whose calculations are extremely elaborate. Mebarki *et al.* write merely canonical commutation relations but one can find no evidence that they have actually calculated the equal-time commutation relations (between field operators and their derivatives) of quantum nonsymmetric gravity. The expressions must be *different* from those of quantum Einstein gravity. Therefore there is no reason to believe that the geometric commutation relation and the sixteen dimensional superalgebra

remain valid in quantum nonsymmetric gravity.

We hope that Mebarki, Maireche and their collaborators refrain from the unfair conduct shameful as scientists.

Appendix: 論文 [MMZ] と [MMBB] におけるコピペ箇所 (計 7 ヲ所) の具体的指摘 [省略]

12月7日、プレプリント・サーバーの www administrator からの返事があった。彼は、彼らの論文で acknowledge された5人の物理学者 (Strominger, Vilenkin のような著名人を含む) に問い合わせたところ、すべて著者と話したことも逢ったことさえもないという返事だったということである。完全なインチキ論文であることがはっきりしたので、Mebarki らの論文は永久に受け付けないことにしたということであった。

その3日後、www administrator から、より詳しい説明が届いた。剽窃以外にも、名前の盗用、所属の詐称 (共著者が Harvard になっている) があり、著者に問い合わせても返事がないので、彼らの論文は取り消し処分にするとのことであった。名前を盗用された Farhi, Vilenkin, Abbott からのメールのコピーも添えられていた。いずれも全く寝耳に水のような話に驚いている。さらに Mebarki は、問題の論文以外にも、以前に3編のいかがわしいプレプリントを提出していたようである。彼らの論文は過去、現在、未来にわたってすべて追放されることになった。

12月11日われわれは、万一剽窃論文がどこかの雑誌に掲載された場合、著作権問題が発生しかねないので、著書の出版元である World Scientific に一部始終を連絡した。

4 事件のその後の展開

これで剽窃事件は一件落着と思っていたら、とんでもなかった。その後半年近くにわたって、いろんなことが起こるのである。明白な不正の存在に対して、人々がどういう反応を示すか、まさに人間模様を見る思いである。

まず12月7日早々にきたメールは、Mebarki と同じくアルジェリア出身の Dou という人だった。彼は同国人が犯した不正を深く恥じ、謝罪した。次に来たのは、超弦理論のブルドッグともいべき人物 Lubos Motl^{*6}で、彼は Mebarki に直接メールをして、このような最低限のモラルもない人間は物理学界から去れと言っている。また、数理研によく客員として来る Sternheimer は “Well done!” とのみコメントしてきた。

ここまでは、すべて正常な反応だった。ところが12月11日になって、雲隠れしていたはずの張本人、自称 Professor の N. Mebarki から、直接メールが来た。まず、アルジェリアではインターネットがうまくつながらず、対応が遅れたことを詫び、ついで次のように書いてきた。

Concerning the papers hep-th/9911045, hep-th/9911046, hep-th/9911048, hep-

^{*6} 彼のメールの末尾には、標語 “Superstring/M-theory is the language in which God wrote the world” が書かれている。数年後、超弦理論を徹底的に批判した本 “Not Even Wrong” が出て、私はその著者 Woit のブログをしばしば訪れているが、ちょっとでも超弦理論にケチをつける意見が述べられると、必ず Lubos Motl は猛烈に咬みついてくるようだ。

th/9911049, I think

1) these are pre-preprints (not a published works) which can be criticized commented or discussed.

2) the content of these papers is quantum Non Symmetric gravity and not quantum Einstein's general relativity. Of course the first one is the generalized version of the second and most of mathematical relations can be recovered. The aim of these preliminary preprints is to show that the covariant operator formalism can be extended to NGT. Sorry for forgetting of references related to your book and the use may be the same notations and expressions. It is maybe a confusion regarding the form of the obtained expressions and relations. To avoid this misunderstanding and maybe confrontations of the pre-preprints we have decided to withdraw them from the hep-archives and have more contact with you concerning the physical content of the QNGT and if you need the details of our calculations we can send them to you as attached file in the near future. Dear sir we are very sorry that this problem have taken this dimension for just preliminary preprints which are by definition (and as far as we know) subject to criticism and discussion. It's question of conviction. Please understand our sincere intentions and we are pretty sure for your comprehension.

要するに、自分たちの論文は、非対称テンソルに基づく重力理論だからアインシュタイン重力とは違う。あなたの方の本の引用を忘れたのは申し訳ない (!! これだけたくさん盗用して「忘れられる」わけないよね。それより原論文の引用を消去するのを1個たりとも忘れなかったんだから)。論文はほんの準備段階のもので、問題があるようなので取り下げた(うそつけ! www administrator によって削除されたくせに)。あなた方も自分たちの仕事に興味をもってほしいというようなずいぶん手前勝手なメールだ。もちろん、われわれは無視することにした。そして、12月16日また Mebarki から、次のような呆れたメールが来た。

We are very sorry about what was happened concerning the pre-preprints of non symmetric gravitation theory and the big confusion about them so we have withdrawn all the indicated pre-preprints from the hep directory. I pay your attention, sir, that they were not (and they will not) be sent for publication. Finish with them (and forget them).

We have noticed also that you have sent notes (hep-th/9912039) to the hep archives, please withdraw your article and let us collaborate for more interesting physics problems.

つまり、自分たちの論文は取り下げたのだから、それを批判したあなた方の論文も取り下げしてほしい、そして、もっとちゃんとした仕事をするために共同研究してほしいということだ。もしわれわれがこのコメントを取り下げたら、第三者からはわれわれの指摘に誤りがあったように錯覚されるだろう。そしてこんな詐欺師のインチキ野郎と共同研究などしたら、それこそわれわれの破滅につながりかねない。全くどこまでど厚かましい奴なのだろう。

12月18日、今度は論文 [MMBB] の共著者の1人 Benslama から謝罪のメールが来た。Mebarki があなたの方の本から剽窃していた事実は全然知らなかった。全く申し訳ないという内容である。しかし同一人物が www administrator に宛てたメールは少しニュアンスが違って、自分が共著者にされていたこと自体知らなかったというふうに言っている。自分までもプレプリントが発表できなくなるので、あわてたのかも知れないが、同じ大学の同じ分野の同僚が勝手に自分を共著者にして論文を出しているのに全く気が付かなかったというのは、どう考えても不自然だ。

さて、年が改まって2000年1月24日、今度は Mebarki が所属するアルジェリアの Constantine 大学の物理学教室主任と理学部長からファックスで、フランス語の謝罪文が届いた。

1月28日、1か月半ぶりで Mebarki からかなり長いメールが来た。四面楚歌で大分参ったのか、今度は大分丁重な謝罪になった。まず、剽窃は自分の院生の A. Maireche (Harvard 所属を詐称した人物) がやったことで、自分の監督不行き届きだが、全く知らなかったなどと主張する。今頃になってそんなことが新たにわかったはずはないだろう。そして、ちゃんとあなたの方の仕事を引用して、論文を書き直したから見てほしいなどと虫のいいことを言う。1月29日、www administrator が、彼らとのやり取りを転送してきた。それによると、Mebarki は完全に Maireche の単独犯行だと言い張っているようだ。Maireche が勝手に自分のメール・アカウントを使って剽窃論文を投稿したのだというのである。しかし、去年11月6日に Mebarki に論文受け取りのメールが行っているはずで、今頃になってから知らなかったはあり得ないという、アルジェリアではインターネット事情が悪く、連絡がうまくいかないのだと弁解する。www administrator は、他の3人の共著者 Boudine, Benslama, Haouchine にも連絡をとって、Mebarki の弁明について問いただしたが、自分たちに累が及ぶことを恐れて逃げ腰一点張りのようである。

私は Maireche の単独犯行説を覆すうまい手立てがあることに気付いた。それは彼らの論文の引用文献にあった1997年の Mebarki と Maireche の共著論文3編の存在である。それらのタイトルは、

“Sixteen dimensional $GL(4, R)$ like superalgebra” (UC PUB39),

“Possibility of resolving the divergence problem in quantum nonsymmetric gravity” (UC PUB41)

“Geometric commutation relations in quantum nonsymmetric gravity” (UC PUB42)

である。UC PUB というのは、Constantine 大学の紀要のことだろう。第1のものと第3のものは、それぞれ多分論文 [MMH] と論文 [MM] と同様のものだろう。第2のタイトルは、in 以下を除き [NO] の5.8.2節のタイトルと全く同じである。Mebarki らはすでに少なくとも3年前から剽窃を繰り返していた可能性が高くなった。もしそうならば、Mebarki が3年間も Maireche の剽窃を気づかなかつたなどという言い逃れは不可能だ。そこでこの事実を Constantine 大学の当局者に問い合わせ、もし論文が実在するのならば、コピーを送ってくれるよう依頼した。

2月21日、Constantine 大学物理学教室主任からの調査報告がファックスで送られてきた。やはり上記の3論文に関してこちらが推定した通りであったとのことだった。そしてさらに雑誌

に発表された論文

“The quantization of Nonsymmetric Gravity”, by Mebarki, Benslama, Boudine and Maireche, *Physica Scripta*, Vol. 55, 12-17, 1997)

にも剽窃があった由である。ということは、3年前から Mebariki のみならず他の 2 人の B. も共犯だったわけだ。

仲介をやってくれていた小嶋氏はこれで剽窃事件は一件落ち着いたと思い、海外出張のこともあるので、この話から手を引くつもりだった。ところが事件はまだまだ終わらなかった。3月10日、今度は Slatnia という Constantine 大学の副学長で調査委員会の代表と名乗る人物から、調査報告のメールが送られてきた。それによると、Mebarki の処罰については現在考慮中であるが、本人の寄与を明確にした論文を書かせているので、ご意見を伺いたいとのことで、本人からの詫び状が添えられていた。彼によれば、Mebarki は 13 年前からこの大学に在籍しているが、これまでなんら問題を起こしたことがないという。救ってやりたい彼の気持ちは分からないでもないが、しかしそれはこちらの知ったことではあるまい。こちらは剽窃された全くの被害者だ。犯人を救ってやる義理はないだろう。とにかくこちらは静観することにした。なお彼によれば、上記 3 編の論文は大学には存在しなかったとのことである。だんだん怪談めいてきたなあ。

そして 4 月 10 日、調査委員会代表の Slatnia から第 2 信がきた。Mebarki に対する処分が決まったことを述べたのち、Mebarki が改訂論文を書いたから見てほしいという。大学としてもこの問題は非常に憂慮しており、Mebarki 個人の咎にとどまらず、大学の名誉にもかかわることである、Constantine 大学の学長の名において謝罪するので、告発状 hep-th/9912039 を取り下げてほしいと要請してきた。全く呆れた言い分である。これでは Mebarki の思惑通りで、こちらの方がお騒がせしたみたいなお話になってしまう。もちろんこんな要求には応じられるわけではないであろう。

その少し前の 4 月 8 日、www administrator から、彼と Constantine 大学の連中とのメールのやりとりを転送してきた。彼は acknowledgement のインチキや、著者の所属の詐称の方を気にしていて、それに関する彼らの対応があまりにも遅く、本当のことを言っているとは信じられないという見解を述べている。小嶋氏はこれに対する返事のかねて、上記の Slatnia からのメールについてこちらの立場を説明した。Slatnia からは直接 www administrator へのメールも来たようだ。www administrator は投稿された不正な論文はすべて削除したが、告発状 hep-th/9912039 を削除する考えはないことを伝えてきた。プレプリント・サーバーは、過去の事実を記録に残しておくべきものだからである。

これでやっと Mebarki 事件は終結した。最後に私の述べた見解は次の通りである。

1. The papers of Mebarki et al. consist of the substantial part “plagiarism from our book” and the nominal part “quantum nonsymmetric gravity”, between which no logical connection has been established. If the former is deleted, there remains nothing significant as research.

2. We think that Mebarki is devoid of both minimum conscience as a scientist and

minimum research ability as a scientist. Hence we do not want to spend time to save Mebarki any more. He should recall Lobos Motl's advice to him dated 7 December 1999.

5 終わりに

振り返ってみると、Mebarki はごまかそうとして細工すればするほど、自ら墓穴を掘っていったように思われる。不思議なのは、プレプリントの投稿をしたという Maireche という彼の共著者である。Maireche はいつも Mebarki の影のようにくっついていながら、本人からの連絡は最後まで誰に対しても全くなかった。はたして彼は実在しているのだろうか。インチキがばれたときの責任転嫁用の、Mebarki が拵えた架空の人物なのではないかと疑われる。そのほかの共著者は、責任回避にばかり終始している。だがもちろん剽窃がばれていなければ、これらの論文を自分の業績として利用するつもりだったのに違いない。

論文というものは、本来自分が書きたくてたまらないことを書くはずのものだ。他人の文章をコピペしたって少しもうれしくないだろうと思う。これは、論文を書く目的が科学的な成果を公開し報告するということから、自分の地位や名誉、研究費獲得などの手段になってしまった結果である。それにしても丸写しするのは、よほど内容について自信がないからであろう。内容を理解して自分の文章にすれば、実質的に剽窃してもなかなかばれることはないと思われる。Mebarki の剽窃がばれたのは、あまりにも機械的なコピペをやったからである。もっと細工を凝らし、適当に引用もしていたら、ばれなかったかも知れないし、またばれても言い逃れができたかも知れない。